

本との出会いを単元で

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



Q

子どもたちが本の話題で盛り上がっていると、本当にうれしくなります。
でも、話題の中心はほとんどが物語で、もっといろいろな分野の本にも興味をもってほしいなと思っています。
学校の図書室を有効活用して、それがうまくできるような授業の工夫があったら教えてください。

A

学校には必ず図書室があります。その図書室を活用しないのは本当にもったいないことです。
インターネット等で情報を得ることができ、大変便利にはなりましたが、やはり書籍の情報には厚みがあり、信頼度も高いものです。「活字」への信頼感とでもいうのでしょうか。何かあったら図書室へ、という発想をもつ子どもたちに育ってくれることを望んでいます。

そして、何かを知りたいときはもとより、ゆったりした時間を過ごしたいときや、静かな時を過ごしたいときも図書室へ来てくれるようになると嬉しいですね。
今回は、図書室に行きたくなるようなしかけを考え、いろいろな分野の本にふれ、情報を整理したりすることもねらった単元を紹介します。

知らないことを 苦しすぎない

一年生の早い時期に「図書室には面白そうな本がいっぱいあるんだよね」と思わせるのはとてもいいことです。学校の中にある知的な空間をぜひ子どもたちにも知らせたいと思いました。

新しい学校に転任したとき、私自身が図書室の本を熟知できていないということもこの単元の発想のもとになりました。子どもたちといろんな本を発見する喜びを分かち合いたいという気持ちで始めたのです。
何もかもわかって始める単元が理想ではありますが、自分が知らないことがエネルギーになることもありま。知らないということに苦しむ、それを逆手にとって、そのことを知るための単元を、ときには考えてもいいのではないのでしょうか。子どもとともに学ぼうという気持ちをもつのです。
もちろん、だからといって知らない

図書室探検

いことに甘えてはいけません。子どもたちよりも多くのことを知っている方がいいですし、「知る」ということだけが学習の目標になるのではなく、この学習を通してどんな力をつけようとしているのかを忘れないようにしたいと思います。

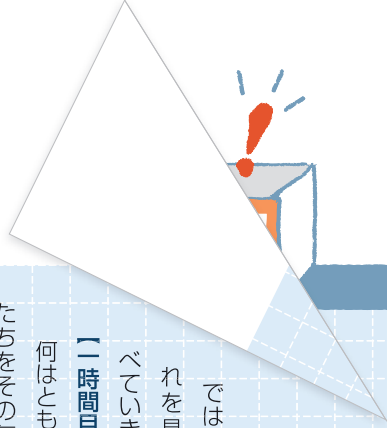
今回の授業の流れは下のようになります。今回は四時間の予定になっていますが、やり方によっては二時間でも可能ですし、つけたい力によっては六時間ぐらいにもなります。それまでにつけてきた力や学習歴も考えて組み立てる必要があります。今回つけたいと思った力は、カードの作成、カードの分類整理、ナンバリングの力でした。
発表する力や話し合う力、プログラムを考えてわかりやすい発表をする力はそれまでに学習してきたのでこのような授業の構成になりました。

【学習の流れ】

- 一 学習の流れを知る（単元についての説明）……………一時間目
- 二 グループ分け、座席決定
図書室探検
- 三 ①担当する棚の確認
②担当した棚の探検開始
③面白い情報を発見↓カードに書く（一項目一枚）
④カードをつき合わせる（三人分）
⑤カードの分類・整理……………二時間目
⑥カードの情報をナンバリング（伝えたいことの順番を決める）
⑦発表の内容の検討
⑧プログラムを考える
- 四 発表の練習・リハーサル……………三時間目
- 五 発表会……………四時間目
- 六 プログラムを考えて魅力的な発表をする
交流
- 七 ①発表を聞いてコメントを書く
②コメントを発表する
まとめ
- ①講評
- ②図書室利用の基礎知識について（先生の話…ラベル・分類法等）
③振り返り

【目標】

- 図書室の中の本を幅広く知る
- 情報の分類・整理・ナンバリング等ができる
- 図書室利用の基礎知識を学ぶ（ラベルの意味を理解する）



では、授業の流れを具体的に述べていきます。

【一時間目】

何はともあれ子どもたちをその気にさせる

ことが重要です。学習のスタートからゴールまでを具体的にイメージできるかどうかは鍵となります。

先ほどの「学習の流れ」を説明した後、図書室の本棚からいくつか抜き出して紹介しました。

「思わず読んでみたくなりますよね!」というときの情報源は何かを考えて準備をしました。あまりなじみのない分野でも、読みたくなるスィッチはいろいろなところにあると思います。

- ▼書名が面白い
- ▼目次にこんなことが書いてある
- ▼前書きが魅力的だ
- ▼こんな写真が載っていた
- ▼あの本を書いたのと同じ人の本だ
- ▼〇〇に役立つ
- ▼〇〇に興味のある人なら面白いのではないか

教師が例を示すときは紹介しすぎず、でも、紹介するときのポイントを教えるつもりで四、五冊いろいろな棚から抜き出して軽く紹介しました。「読んでないけど面白そうですよ」という紹介の仕方です。

子どもたちの人数と棚の数から分担箇所をあらかじめ考えておきます。今回は三人のグループも分担箇所もすべてくじで決めました。人間関係もあるので、自分の教室に合ったグループピングと担当決定でよからうかと思っています。

そしてすぐに探検の時間をとります。今回はぎりぎり二十分とることができました。何かおもしろいことを発見したら一枚のカードに書きま

す。一つの発見に一つのことを書くように指示しました。子どもたちは大急ぎで発見してはカードに書き込んでいきます。緊張感のある時間が流れました。下に示したものが子どもたちの書いたカードの例です。個人差はありますが、一人あたり二枚〜三枚というのが平均でした。

▼子どもたちの発見例

書名	著者	ラベル	コメント
絶対知らないものの名前	北橋隆史	ラベル049キ	出てきそうで出てこない!
書名	著者	ラベル	コメント
悩んでなんぼの青春よ	森 毅	ラベル159モ	目次の文がおもしろい。例: 頭が悪いのは治らないか
書名	著者	ラベル	コメント
教科書に出てくる歴史年号を語呂合わせで覚えよう	ながたみかこ 鬼頭明成	ラベル210ナ	勉強に役立つ! 楽しい!
書名	著者	ラベル	コメント
お金100のひみつ	工藤洋久 久保田聡	ラベル337オ	題名が面白い。
書名	著者	ラベル	コメント
バカなおとなにならない脳	養老孟司	ラベル491ヨ	どうしてこんな本を書こうと思ったのかが不思議でひかれた。
書名	著者	ラベル	コメント
顔をなくした少年	ルイス・サッカー	ラベル933サ	顔がなくなるとは、どんな話か?

【二時間目】

個人で書いたカードをグループで分類・整理して、発表の骨子を話し合う重要な時間です。机に各自で書いたカードを全部並べました。

今回の学習でつけた力はこの時間の学習でした。情報を目に見える形にすること、その情報を分類でき

【三時間目】

分類・整理したカードに沿って発表を組み立てていきます。一学期の初めからプログラムを考えて発表することはやってきましたので、この時間は自分たちでぐんぐん進めていきました。発表のための原稿を書くことも必要ないということで進めました。多少の不安はあったものの、何回か練習していくうちに、その不安もなくなったようでした。

全員同時に練習を始めます。各グループ一列に並んで、発表の時の様子を想像しながらの練習です。三分以上四分以内という設定にしました。時間を計って、情報を足したり削ったりしながら練習をします。そして最後にリハーサルです。すらすら言えることより、伝えたいことが伝わる

【四時間目】

発表です。具体的な発表を紹介し

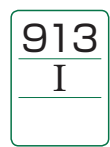
十進分類法を

この発表の後、十進分類法の話や本のラベルの話もし、ぜひ覚えてほしいということをお話しました。子どもたちは地域の図書館や書店の番号がそういう意味あるものと知って驚いていました。新しい教科書では一年の四月に「本と出会う」という教材があり、ここで十進分類法が出てきます。

定期テストでは、ラベルについての知識を次のように問いました。

◀テスト問題の一部

1 次のラベルが貼ってある本はどのような本だと考えられますか。わかる情報を書きなさい。



2 『文法から学べるフランス語』という佐原隆雄さんの本を探すべきかどうか。ラベルの空欄に書き込みなさい。

「そうだ、図書室へ行こう!」

この学習の後、子どもたちの紹介した本を特別な「コーナー」を作って並べて置いていたら、大勢の子どもたちがさまざまな分野の本を借りていきました。また、図書室に来ていろいろな棚を見るようになりました。「こんな本がありますよ」「この本読んでみませんか」と話しかけては、嬉しそくに貸し出し手続きをしていました。

何かあったら、いえ、何もなくても「図書室へ行こう!」という気持ちになってくれたら嬉しいですね。この単元で、私自身も自分の学校の図書室のことが詳しくわかるようになりました。本を手になければ先に進めない学習をいろいろ考えて、これからも挑戦してみようと思っています。